

2012年（平成24年）度第1回常務理事会記録

日時 2012年（平成24年）1月28日（土） 13:02～15:50

場所 東京大学医学部教育研究棟2F第1セミナー室

出席者：高田邦昭（理事長）、牛木辰男、岡部繁男、河田光博、渡辺雅彦（以上常務理事）、竹田 扇、寺田純雄、（以上常任幹事）、天野恵子、中村 聡（以上、口腔保健協会）

理事長より新年度の重要項目として法人移行、サージカルトレーニング問題、総会などが控えているので常務理事会諸氏の協力を要請したいという挨拶があった。

I. 会議記録の確認

2011年（平成23年）度第8回常務理事会（平成23年12月10日開催） 記録（案）

2011年（平成23年）度第6回理事会（平成23年12月10日開催）議事録、記録（案）

II. 報告事項

1. 庶務報告（岡部庶務担当理事）

(1) 会員異動報告

平成23年12月分（入会者 正会員1名、退会者 正会員 14名、学生6名、学術評議員2名）

逝去会員：なし

(2) 会費納入状況（長期未納者の除名について）

資料に基づいて説明があり、未納者リストを総会時に貼り出すことが報告された。未納者リストに知己がいる場合には直接催促することとした。

(3) 学会宛文書類について

① 通知・依頼：日本医学会より「2012年（平成24年）日本医学会分科会総会一覧」他22件の通知・依頼あり。

② 書籍・定期通信等：（独）日本学術会議より「学術の動向 2011.12」他10件あり。

(4) 各種委員会報告について

資料に基づいて説明がありASI、解剖学用語、学術、国際交流の各委員会ならびに法人化ワーキンググループの報告書がまだ届いていないので、督促することになった。

(5) 評議員会・総会の案内と書面表決状について

資料に基づいて説明があり、標記書面表決書を会員全員に2月中頃から発送を行う予定であること、今回の9号議案は重要なので、会員への周知を徹底することが必要であることが確認された。また、会員に注意を喚起し有効投票数を集める為の工夫として葉書は2色刷りにすることとした。その他に出席者数の重複カウントを防止すること、書面表決書の誤植を修正することが確認された。

(6) 評議員会・総会資料作成について

資料に基づいて説明があり、会員異動に関して遺漏がないことを確認する様に注意が喚起された。また奨励賞受賞者の所属の誤植を修正することが確認された。

(7) その他

昨年度の学会が紙上開催となったので、前大会長の順天堂大内山安男教授に今回の総会での挨拶を依頼することにした。

2. 編集報告（渡辺編集担当理事）

(1) その他

ASI、解剖学会誌共に予定通り刊行されている旨の報告があった。Springerの投稿システムに大きな問題があり、年森編集長を中心にシステムを改善する為の努力が行なわれている旨が報告された。

3. 企画・渉外報告（河田企画・渉外担当理事）

(1) 平成23年度日本解剖学会奨励賞について

資料に基づいて説明があり、昨年12月の選考委員会で2名が選考された旨が報告された。今後、若手の発掘の為に新たな論文賞の創設、受賞分野の偏りの解消などを考えていく必要性が提起された。

(2) 2012(平成24)年度総会・全国学術集会準備状況について

資料に基づいて説明があった。昨年の大会で紙上開催となった「男女共同参画シンポジウム」が日本生理学会（松本）で開催されることが報告された。解剖学会員、生理学会員の何れかであれば相互の学術集会に一般会員資格で参加出来るように規約を改正する方向で生理学会と協議することになった。

(3) 日本医学会報告

資料に基づいて説明があり、今回は解剖学会からの候補擁立は見送ること、運営費分担金に関して検討の余地があること、非会員が多くを占める基礎医学系の負担額に関して議論があること、などが報告された。分担額や日本医学会の具体的な事業内容などに関して情報交換と意見交換が行われた。参考として日本歯科医師学会の現状に関して天野氏から説明があった。

(4) その他

特になし。

4. 会計報告（牛木会計担当理事）

(1) 支部学術集会決算について

資料に基づいて説明があり、全て問題なく処理されたこと、北海道支部の余剰金が解剖学会本部に返金になった旨が報告された。

(2) 平成23年度決算書概要(案)について

資料に基づいて説明があり、これから会計監査が入る旨が報告された。昨年度の全国学術集会が紙上開催になった為の剰余金の処理、科研費非採択による予算処理に関して説明があり、本会計年度は実質的に黒字となったことが報告された。

(3) その他

特になし

III. 審議事項

1. 新入会員の承認について

資料に基づいて説明があり、1名が承認された。

2. 教授就任による学術評議員審査について

資料に基づいて説明があり、2名が承認された。

3. 申請による学術評議員審査について

10名の申請があり、このリストの候補者全員を理事会で諮ることとした。このあと、評議員の定数、教授以外の申請の取り扱い、申請による学術評議員の資格認定基準の明文化などに関して種々の意見交換が行われた。

4. 名誉会員の推薦について

資料に基づいて説明があり、未返答の候補に関して情報交換が行われた。

5. 一般社団法人への移行について

資料に基づいて説明があった。

① 定款のうち第2条、第10条、第11条(5)、(8)、第17条、第21条、第23条、第48条、第51条、附則4,6に関して説明があった。特に第23条(3)に関して種々の意見交換が行われた。定款の改定には社員総会の議決で2/3以上の賛成が必要であることが確認された。理事長より来年1月1日の新法人移行に向けて、遅滞なく手続きを進める様に要請があった。

② 代議員選挙規程に関して語句や様式を整える必要があることが確認された。欠員補充のタイミングに関しては、従前の方式で行うことが確認された。第4条の被選挙権に関して本文以外の規程は削除し「別に定める」という文を入れて補うこと、現在の学術評議員をもって代議員とすること、が提案された。以上の修正を行った選挙規程全体を本年3月の総会で諮ることになった。

③ 公益目的支出計画(別紙3)に関して追記、改訂された部分の説明があった。この支出計画は帳簿上3年で旧法人の資産を解消することが目的であり、学会に損失がある訳ではないということが説明された。

6. 次回常務理事会・理事会・支部長会・各種委員会の日程・議事について

資料に基づいて説明があり承認された。各種委員会への出席担当理事長、常務理事を決定し承認した。また、最終日の海外交流委員会には常務理事は出席しないことになった。

7. 平成24年度奨励賞選考委員会の人選について

資料に基づいて説明があり、委員長として福井大佐藤真氏を推薦することとした。残りの6名の選考を河田理事に一任する事が承認された。

8. 一般社団法人体表解剖学研究会より「HPリンクのお願い」について

資料に基づいて説明があった。本件に関しては情報技術委員会で検討した上で回答する事、今後のこのような依頼への対応も同様に同委員会に一任することを承認した。

9. 脳科学関連学会連合の設立および参加について

資料に基づいて説明があった。設立の趣意は神経研究に係る基礎・臨床双方の学会の交流を促進すること、意見を集約してパブリックコメントを出すことなどであり、解剖学会の参加が求められている旨の説明があった。解剖学会の参加に関して満場一致で承認された。

10. 臨床医学の教育および研究における死体解剖のガイドライン

理事長より当日配布資料に基づいて説明があった。この中でサージカルトレーニングセンターを全国6箇所を設置する単年度限定予算が措置されること、その用途に関して解剖学会でも検討していく必要があること、が報告された。解剖学会としての意見は倫理委員会、教育委員会で検討中であることが紹介された上で、外科学会のガイドラインの内容に関して種々の意見交換が行われた。以上の議論を受けて、日本外科学会のガイドラインに対する各理事に意見を求めることにした。また、解剖学会としてのコメント素案を岡部理事と理事長が作成することになった。更に、今後の対応に関して正式に理事長から外科学会に対して問い合わせを行う事にした。

11. その他

- ① 学会センタービル（文京区）の現況に関して口腔保健協会中村氏より追加資料に基づいて説明があった。電話が2回線あることと、ここに保管されている書類の取り扱いに関して説明があった。登記上の学会事務局が豊島区に移転したあとはそのまま保管用スペースとして使用することにした。
- ② 岡部理事より山梨で開催される第117回全国学術集会でのワークショップで発表を行う学生の旅費（一人10万円程度）を学術交流に関する基金（特別積立金昨年度に入金済み）から支弁することが提案された。その可否はメール理事会に諮ることにした。
- ③ トラベルアワードの審査に関して質問があり、正式名称が「肉眼解剖トラベルアワード」であることを確認した。
- ④ 理事会名簿に関して河田理事から問い合わせがあり、名簿を更新して早急に配布する事になった。
- ⑤ 今年度の常務理事会の日程と場所を決定した。
3月25日（日）：山梨大学、6月23日（土）：東京大学、9月8日（土）：東京大学、12月15日（土）：東京駅周辺の貸会議室（未定）

以上